

# 「ゆめあるて」の門出晴れやか



秋晴れの下、来賓と関係者によるテープカット



第645号  
 発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己  
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (11月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,415人  
 女 3,517人  
 総人口 6,932人  
 世帯数 2,096戸

## 地域発展の切なる願いと込め 10月25日、交流学習センターの竣工式

交流学習センターの竣工式が、十月二十五日に、宮下一郎国会議員など来賓の方々を招き、盛大に挙行されました。当日はのどかな秋の好日で、建設関係者をはじめ、公民館の登録グループ会員も多数参集し、晴れやかに新施設の完成を祝いました。式典は、玄関先でのテープカットの後、木製の壁がしっとりとした落ち着いた雰囲気を醸し出す大ホールで行なわれました。村民の様々な願いが込められたこの施設が、人づくりや地域づくりの拠点となり、発展する村のシンボルになっていくよう期待するものです。

### 名実ともに 人づくりの拠点に

豊丘村長  
下平喜隆

念願の交流学習センター「ゆめあるて」の竣工式を十月二十五日に盛大に行なうことができました。これもひとえに近隣住民の皆様はじめ全村民の皆様、関係者の皆様のご理解とご協力によるものと心から感謝申し上げます。

昭和四十四年建設の総合福祉センターは、老若男女の様々な活動に利用されて

きました。しかし、近年建物の老朽化に加え、高齢者の利用が主流になるとともにホールが二階の不便さが指摘され、男女トイレの不備等もあって、新施設建て替えの声が高まりました。そうした中で私自身も建て替えを決意し、村長当選と同時に、建設場所とホールの性格、大まかな予算を決めさせていただき、詳細は建設委員会に一任しました。

このように立派な施設が大きな問題もなく竣工できたのも、建設に関わっていただいたすべての皆様のご尽力や、四億円の建設基金を積み立てていただいた先輩諸氏のご労苦の賜と厚くお礼申し上げます。ご存知のように、J.R東海によるリニア中央新幹線の工事も国による正式な認可が下り、いよいよ本格化していきます。豊丘村の位置する伊那谷は、このリニア開通や、三遠南信道の開通によって、日本一の将来性、もしかすれば世界一の

将来性も秘めています。こうした中で「ゆめあるて」は村の新しい文化や教育、人づくりの施設としてオープンしたわけです。いつの時代にも地域の活力の源は、住民が自主的に集い、学び、コミュニケーションを高めることから始まります。将来性豊かな豊丘村を、未来に向けて、さらに元気で、明るい、賢い村にするために、村民全員がこの交流学習センター「ゆめあるて」を有効に活用し、名実ともに、村の文化、芸術、教育、人づくりの拠点にしていきたいことを希望いたします。

今私達に求められているのは、「体力」ではないだろうか。子供は、年齢と共に知恵が付き、それに伴って体力をつけさせるのが父母。幼児が一つのことを達成すると、家族全員が歓喜し、拍手して喜ぶ。それから数年過ぎると、子供は自分で目標を持って行動し、それからまた次の目標に向かって進む。体力も増す。親はそんな子供を見て、「大きくなったなあ」と思う。しかし、数年過ぎると、子供にはテレビやゲームという落とし穴が待っている。親が気付いた時には、外遊びが減り、体力も落ちてくる。これは家庭の責任か、それとも学校の責任か。今の世の中、未満児から他人に託して働きに出る。一昔前までは考えられなかった。時代が変わったとは云え、悲しい。体力がなくなるとは、能力や知恵の発達も遅れてしまう。子育ても、他人の考えに乗るのではなく、自分で考え工夫してできた時が本物。本物の喜びを味わってほしい。

高齢者は週一回以上運動している人が七割と、健康への意識が高い。逆に子供の体力は低下傾向。特にボール投げが苦手な子供が増えている。ボール投げには技術がいる。体力・能力の活性化には「早寝早起き朝ごはん」。そして何よりも「おはようございます」で、一日の第一歩を、心にスイッチを！

## 澄んだ歌声、ダイナミックな演奏 芸術の香り豊か、とよおかコンサート

演奏の音で  
会場が一体だ

とよおかコンサート  
実行委員  
大原俊秀

十月二十五日の午前中は、「ゆめあるて」の竣工式と、豊丘村歌の歌碑の除幕式が厳かに行なわれました。そして午後からは「とよおかコンサート」が盛大

に開催されました。今回は、合唱団「まい」による合唱と、サクソフオーンカルテット「桜」による演奏です。最初は、合唱団「まい」のコンサートで、男女混合二十名くらいで構成されています。全日本合唱団コンクールに初出場で金賞を受賞し、以来全国大会十回出場して六回の金賞を受賞しています。オープニングでは「信濃の国」が合唱されました。ハーモニの美し

さが響き、心に染み込むような気がしました。「朧月夜」「紅葉」「赤とんぼ」と、どれも知っている、今の季節にマッチした歌も合唱してくれましたが、どの歌も懐かしさ、心が洗われるような気がして感動しました。次にサクソフオーンカルテット「桜」のコンサートで、四人の見目麗しき女性達で、第五回のルーマニア国際コンクール室内楽部門で第二位を受賞されていま

す。オープニングでは、「HARUKAZE」を演奏され、さわやかで何か新しいことが始まりそうな、わくわくした気持ちが伝わってくるような曲でした。リクエストコーナーでは、おなじみの「ミッキーマウス」等三曲ほど演奏され、最後には震災復興記念曲「花は咲く」でした。これは、豊

丘中学校吹奏楽部との合同演奏で、合唱団「まい」も再登場して加わりました。演奏と合唱で会場が一体になり、最高の盛り上がりでした。私も感激で一杯になり、思わず目頭が熱くなってきました。音楽は心に栄養と潤いを与えるオアシスみたいなものではないかと思えます。



「桜」と豊丘中吹奏楽部とのコラボに会場うっとり

# とよおかまつりステージ発表 熱演!! 演者と観客が一体に

文化祭作品展が、十一月二日から九日まで、新しい公民館の交流学習センターで開かれました。グループ作品から個人出品の作品に至るまで、文化芸術の香り高い力作が展示され、来場者の目を惹きつけました。どの作品にも制作者の意欲と情熱が込められており、見応えがありました。

## 我が子のように 愛しい作品が 押し花クラブ

久保田さと子

また、十一月八日と九日にはとよおかまつりが開催され、十六の公民館グループがステージ発表を行いました。どのグループも日頃の研鑽の成果を十分に発揮し、見栄えがしました。

今年も「とよおかまつり」が盛大に行なわれました。私達押し花クラブでは、「とよおかまつり」に合わせて開催される公民館文化祭作品展に毎年、額数点と、豊丘南小学校の四、六学年の「押し花クラブ」児童の皆さんの小物作品を展示させていただいております。

通常は、月一回程、公民館で、講師の先生と五名のクラブ員で和気藹々作品制作しています。主に文化祭作品展に向けて取り組んでいます。自分達で押した花で、「どんな作品にしようか?」こういう作品にしたいけど、どんな花が必要か?」などと先生にお聞きして出来上がった作品は、我が子のように愛しい気がします。(少し大きすぎますが...)

六年前、南小学校から「押し花クラブ」にお声をかけていただき、講師の先生のご指導のもと、子供さん達に楽しんでもらっています。当時小学生だった次男も、卒業しましたが、たまに思い出し、家で押し花をしています。子供さん達を見てみると、集中力を発揮すると、一人一人の個性が出て、こんなに芸術性豊かに仕上がるのかと、驚かされます。小学校生活の楽しい思い出の一つになってくれませんか?と願っています。

公民館も「ゆめあるて」としてリニューアルし、綺麗になりました。豊丘の皆様、日々お忙しく生活されていらっしゃると思いますが、私達と一緒に芸術作品に触れてみませんか。押し花クラブでは、随時会員を募集しております。まずは作品を見ていただいて!

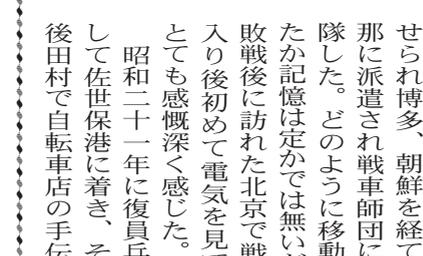
勇壮な音に  
魅力を感じ  
豊丘太鼓シニア  
大澤俊郎

和太鼓の魅力は、何となくもあの勇壮な音にあります。獅子舞や屋台獅子などの日本の伝統芸能に太鼓はなくてはならない物です。国技の相撲にも櫓太鼓があり、人寄せのために打ちならす寄せ太鼓等は古くから親しまれてきており、今日更にその良さが見直されています。

和太鼓のグループは近隣市町村にも数多くありますが、豊丘太鼓は平成九年に結成され、公民館の一グループとして今日まで「とよおかまつり」のオープニングを務めるなど数多くの実績を残してきました。又小学生を中心とした子ども連も広く活動して来ていますので更に幅広さというところで、平成十八年豊丘太鼓シニアが立ち上がりました。六十歳以上を原則に、結成八年目となった今日、メンバーは女性七名、男性三名で楽しんでます。練習は月二回(第一と第三水曜日夜)市民体育館太鼓ルームです。豊丘太鼓のベテランメンバーを指導者にお願ひし、高齢者でも対応できる覚え易いし動きも無理なくできるものに取り組んでいます。一年に一二曲位マスター出来るようにと励んでいます。残念ながら若い人のようにいきません。覚えるのが遅く、忘れるのが早いのが高齢者シニアの宿命ですから。身体は高齢者でも気だけは若く、シニアのユニフォームはピンク色のTシャツです。とよおかまつりと敬老会での演奏が定着していますし、時にはノミネーションも取り入れて楽しく叩いています。

健康で長生きすることは万人の希望です。その意味で、元気な高齢者の方々の生き方や日々の過ごし方は大変参考になります。

池野正興さん  
九十歳  
南市場在住



田村新道で自転車店を営む父の元で生まれ育ち親子で百年の操業を誇った。昭和十七年に大町の軍需工場に徴用され約二年半勤めた後、十九年に二十歳で徴兵され、宇都宮に集合し

僅か一週間で再び汽車に乗せられ博多、朝鮮を経て支那に派遣され戦車師団に入隊した。どのように移動したか記憶は定かでは無いが、敗戦後に訪れた北京で戦地入り後初めて電気を見て、とても感慨深く感じた。昭和二十一年に復員兵として佐世保港に着き、その後田村で自転車店の手伝いをする傍ら、引きこもりになった戦場の先輩を誘い出すよう頼まれ努力する。傷心して復員してきた友人達と、急速に人気が高まった野球チームを作り神稲小学校で練習を始めた。メキメキ上達したチームは南信地区代表として約五年間活躍した。六十歳を過ぎソフトボールに転向してからは上達欲の高まりと共に、時には本業を忘れるほどに練習・試合に打ち込んだ。二十五年の長きに亘った成果として「ねりんピック」では県代表として宮崎、北海道、四国の大会に三回出場。その他全国各地の大会に参加してきたことは誇りであり大きな勲章と想っている。

早寝早起き、規則正しい生活、若い頃のスポーツで鍛えた体、散歩、自転車乗り、家周りの庭木の手入れなどが健康の秘訣と感じました。そして奥様の明るく献身的な支えがあつての現在と思えます。

文責 日下部富次  
桐崎 長一

待望の松尾多勢子の小説  
「火桜が根 幕末女志士 多勢子」完成

飯田市出身の著名な小説家藤本ひとみさんが松尾多勢子のことを四百五十ページにもわたる歴史小説として書き上げてくれました。題名の由来は、三二八ページにある「自分は伊那谷で勤皇の根になろう。勤皇の志士は死ぬにしても、ただ散るのではない。火のように燃え、この世にその焼き

跡を残して散る火桜なのだ。自分は伊那谷で、その根になろう。」という一節からです。ご承知のように松尾多勢子は、幕末期に本村の生んだ尊皇派女性志士です。平田派国学者で、夫の許しを得て、一八六二年(文久二年)に勤皇の志に燃えて、五十二才で単身上洛した多勢子は、宮中に「歌詠

み唄」として入り込み情報収集に努めました。そして、長州の志士とともに尊皇攘夷運動に参加しました。時には、不遇をかこつ岩倉具視に直談判し、久坂玄瑞ら多くの志士から慕われました。しかし、足利三代木像鼻首事件で幕府に追われ、帰郷しました。帰郷後は勤皇志士をかくまい、天狗党の乱を影ながら助けました。そして、一八六八(明治元)年には、岩倉具視の要

本村の生んだ偉大な女流勤皇家松尾多勢子の待ちに待った小説です。すでに書店にも出ていますし、新しくできた図書館にも二冊購入していただきました。是非ご講読下さい。

併せて交流学習センター「ゆめあるて」にある豊丘村図書館は、開館以来多くの方に利用していただいています。是非足を運んでいただければ幸いです。

## 文化祭作品展

# 村の文化芸術が一堂に会し 新しい公民館を華やかに飾る



じっと見ていると制作者の思いが伝わってきます

今年も「とよおかまつり」が盛大に行なわれました。私達押し花クラブでは、「とよおかまつり」に合わせて開催される公民館文化祭作品展に毎年、額数点と、豊丘南小学校の四、六学年の「押し花クラブ」児童の皆さんの小物作品を展示させていただいております。

通常は、月一回程、公民館で、講師の先生と五名のクラブ員で和気藹々作品制作しています。主に文化祭作品展に向けて取り組んでいます。自分達で押した花で、「どんな作品にしようか?」こういう作品にしたいけど、どんな花が必要か?」などと先生にお聞きして出来上がった作品は、我が子のように愛しい気がします。(少し大きすぎますが...)

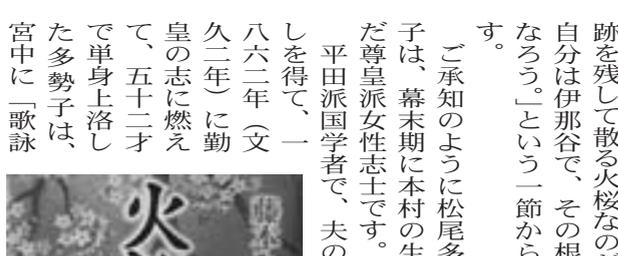
勇壮な音に  
魅力を感じ  
豊丘太鼓シニア  
大澤俊郎

和太鼓の魅力は、何となくもあの勇壮な音にあります。獅子舞や屋台獅子などの日本の伝統芸能に太鼓はなくてはならない物です。国技の相撲にも櫓太鼓があり、人寄せのために打ちならす寄せ太鼓等は古くから親しまれてきており、今日更にその良さが見直されています。

和太鼓のグループは近隣市町村にも数多くありますが、豊丘太鼓は平成九年に結成され、公民館の一グループとして今日まで「とよおかまつり」のオープニングを務めるなど数多くの実績を残してきました。又小学生を中心とした子ども連も広く活動して来ていますので更に幅広さというところで、平成十八年豊丘太鼓シニアが立ち上がりました。六十歳以上を原則に、結成八年目となった今日、メンバーは女性七名、男性三名で楽しんでます。練習は月二回(第一と第三水曜日夜)市民体育館太鼓ルームです。豊丘太鼓のベテランメンバーを指導者にお願ひし、高齢者でも対応できる覚え易いし動きも無理なくできるものに取り組んでいます。一年に一二曲位マスター出来るようにと励んでいます。残念ながら若い人のようにいきません。覚えるのが遅く、忘れるのが早いのが高齢者シニアの宿命ですから。身体は高齢者でも気だけは若く、シニアのユニフォームはピンク色のTシャツです。とよおかまつりと敬老会での演奏が定着していますし、時にはノミネーションも取り入れて楽しく叩いています。

健康で長生きすることは万人の希望です。その意味で、元気な高齢者の方々の生き方や日々の過ごし方は大変参考になります。

池野正興さん  
九十歳  
南市場在住



待望の松尾多勢子の小説  
「火桜が根 幕末女志士 多勢子」完成

飯田市出身の著名な小説家藤本ひとみさんが松尾多勢子のことを四百五十ページにもわたる歴史小説として書き上げてくれました。題名の由来は、三二八ページにある「自分は伊那谷で勤皇の根になろう。勤皇の志士は死ぬにしても、ただ散るのではない。火のように燃え、この世にその焼き

跡を残して散る火桜なのだ。自分は伊那谷で、その根になろう。」という一節からです。ご承知のように松尾多勢子は、幕末期に本村の生んだ尊皇派女性志士です。平田派国学者で、夫の許しを得て、一八六二年(文久二年)に勤皇の志に燃えて、五十二才で単身上洛した多勢子は、宮中に「歌詠

# 歴史の悲しい現実学ぶ

## 「ふるさと探訪で満蒙開拓平和記念館訪問

十月十九日に「ふるさと探訪史跡めぐり」で、阿智村にある満蒙開拓平和記念館を訪ねました。現地への往復の車中で、実際に満蒙開拓を体験された河野の久保田諫さんに当時の様子を話していただきました。罪なき善良な人々が、国策次第で被害者にも加害者にもなってしまうという歴史の悲しい現実を学びました。私たちはこの現実をしっかりと受けとめ、この教訓を現在や未来に活かすことこそ大切であると思います。

### 平和について 考えた日

公民館社会部長  
三澤 学

十月十九日は、平和について考える日になった。それは、満蒙開拓について、歴史について改めて考えさせられた日になったからである。歴史には三つのものがある

一つ目は、学校で学んだ歴史、二つ目は、語り継がれた歴史、三つ目は語り継がれなければいけない歴史です。この満蒙開拓の歴史は私たちが語り継がなくてはならない三つ目の歴史だと思っています。「満蒙開拓団」として満州に渡った人は二十二万人、そして、出身県別のトップは長野県で三万一千人が渡っている。全体の十四パーセントを占めています。

それに、青少年義勇軍を合わせると三万七千人の人が渡っています。その人たちは、敗戦で「地獄の逃避行」になり、最後は収容所等に入れられたが、何とか生き延びて、舞鶴に戻ってきた。だが、半数の人が亡くなった。

満蒙開拓団の証言者久保田さんが当時の話をしてくださった。襲撃、飢え、発疹チフス、子どもを河に投げ捨てる、それに、集団自決…。お話から「生き地獄だった」というのが聞こえてきた。



戦争の悲惨さと平和の大切さを身にしみて感じました

私たちは戦争のない日本に暮らしている、平和が当たり前のように。これをあたりまえと考えるはいけない。過去の戦争での満蒙開拓団の悲劇は、多くの移民を出した下伊那に生活する一人として後世に語り継がなくてはならないと感じました。

平和について考える日を企画していただいた方々に感謝します。

### こちら資料館 147

## 白登作品展 大盛況

資料館主任  
唐澤武彦

「ゆめあるて」の竣工に合わせて開催しました資料館特別展「片桐白登作品展」にはたくさんのお客様にご来場いただきました。誠に有り難うございました。郷土の生んだ片桐画伯の「南

画の世界」を十分味わっていただけたと思います。一週間という短い期間でしたが、参観者の延べ人数は六百余名にもなりました。その中には飯田市や伊那市、遠くは東京など村外から来た方も多数みられ、片桐白登の人気の高さを改めて感じました。また、展覧会初日に行われた飯田美博の滝澤館長の講演は、墨や絵



飯田美博の滝澤館長の講演

の具、紙など様々な画材を生かした画伯の巧みな技法について一つ一つの作品の前で具体的にお話くださり「絵の観方」に目を開かされた思いがしました。さて、今回の展覧会を企画するに当たり特に留意した点は次のことです。皆さんもご存じのように、豊丘村は、村長室の入口に掲げられている『燦華』（孔雀の大作）をはじめ個人所有の画伯の代表的な作品をお借りすることも併せて行いました。

期間を通して、参観の皆様からはたくさん感想やご意見をいただきました。それらを参考に、資料の活用や保管方法等について検討して参りたいと思います。また、スケッチブックについては、資料館で閲覧できます。ご希望の方はお申し出下さい。

最後に、今回の展覧会にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。有り難うございました。



大勢参集し、のどかに和やかに

## チーム間の親睦を深め 技術の向上を図り

### 今年度のナイターソフト終幕

原木門チーム代表  
片桐勝義

平成二十六年度「丘リーグ」優勝おめでとう。選手みんなをほめてやりたい。怪我もなく、不戦敗もなく試合ができたのは、選手全員の協力があったから。お話を聞いて。せっかく出てきたのに、試合に出させてもらえなかったと

悔しがった者もいるかもしれない。参加することに意義がある。これも良いでしょうが、もう一つ加えてほしい。参加することに意義があり、全員を使って勝ちにいこう、これが私のモットーです。

チームが若くなり、一時はチーム名も新しい名前に変えようと思いましたが、相談したところ、先輩たちが引き継いできた昔からの「原木門」が良いとの声が続々と出て、意見がまとまり、現在に至っています。

今では先輩方もほとんど引退し、年配者は私くらいにな



表彰された上位チームの代表

りました。選手はほとんどが息子くらいの年齢といっても過言ではありません。そんな中で一人年寄りがガンバッテいます。チームの中に入れて皆同じ年だと思っと思っています。未だにソフトができるのは、多くの息子達とゲームを楽しみ、飲み語り合っているからではないでしょうか。体力は落ちても気持ち若者と一緒です。

近年賞から遠のいていました。久しぶりの優勝で、今年の忘年会は盛り上がるでしょう。来年もよろしく！六十五歳、ガンバリマス。

### 大会結果

- 豊リーグ
- 1位 オール南
  - 2位 御手形クラブ
  - 3位 伴野クラブ
- 丘リーグ
- 1位 原木門
  - 2位 豊林
  - 3位 河野匠

## 生きる世界の広がり

### 10月18日、慈恵園祭行なわれる

慈恵園職員  
古田 迪子

今年第十八回を迎えた慈恵園祭も、協賛して下さった各方面の皆様、足を運んで下さった地域の皆様方に支えられて盛大に催すことが出来ました。このことを感謝致します。

私自身昨年は勤続一年目で先輩職員の指示を遂行することにだけに終始し余裕がなく終わってしまいました。

希望を与えてくれるのではないかと思います。当日は子ども達も早朝からの準備に始まり店番や昨年の東日本大震災の募金に代わって県内で心臓移植手術の為に寄付を願う女の子を応援する募金活動をするなど、一人ひとりがとても有意義な一日を過ごすことができた様に思います。やがては慈恵園を退園しそれぞれの道に進む子ども達ですが、この活動が必ず自身を助ける貴重な経験となるに違いありません。ぜひ来年度の活動についても協力を見守っていただければ幸いです。

~シリーズ~ 豊丘の自然

No.133

リンドウ (リンドウ科)



十月十八日、阿南町富草でツクツクボウシの声。十一月三日には豊丘村で九種類のトンボ...

「リンドウは山野、エゾリンドウは山地、オオヤマリンドウは深山、ミヤマリンドウとトウヤクリンドウは高山」と...

前号にまちがいがありませんでした。体調は体長、ミチオシはミチオシエ。訂正します。(山田 拓)

子育てを楽しむ

10月18日、とよおか四季大学 秋季講座

十月十八日に村民体育館で、保育園児の親子を対象に、とよおか四季大学秋季講座が開催されました。

親子ゆうえんち

保育園総園長 北原理恵

笑顔でいっぱい！ラプリー♡でとつてもハードな90分！キヤッチフレーズをつけるとしたらこんな感じの親子体育あそび、名付けて「親子ゆうえんち」を、ふるさと大使の丸山克俊先生を講師に行いました。



笑顔いっぱい、ラプリーでハードな90分でした

館に親子の笑い声があふれ「体と体」、「心と心」がピッタリとくっついたステキなひと時でした。保護者の方からいただいた感想として、「沢山体を使って遊んで子どもも笑顔で楽しんでいました。」...

ど、親子のふれあいを楽しんでくれた嬉しい声がありました。なかなかハードで、筋肉痛に悩まされた方も多かったようです。子育ては体力勝負！若くなくてはできないなあと感じました。

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

村内四地域で運動会

「健康ウォーキング」は雨天中止

十月二十六日に、第一分館(河野区)、第二分館(田村区)、第三と第六分館(林区)、第七分館(福島区と王生沢区)の四地域で運動会が開催されました。

一方、十月十三日の体育の日に予定されていた「だんQくん健康ウォーキング」は、悪天候のため今年中止となりました。

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...

「子どもに対して遊んでやっている」という気持ちは今日から捨てて、人生の中で今しかない子育ての時期を自分が楽しませてもらうっていい。」...



10月1日から 10月31日まで (届出分)

出生 子氏名 届出人 自治会 久保田 紘 啓治 中部 松下 美香 昇 豊丘園地

Table with columns for names, birth dates, and other details. Includes names like 宮下 奏佑, 池野 花音, 古澤 優月, etc.

死亡者 年齢 届出人 自治会 山下 志 93 重利 上村 木下美保子 80 耕造 北市場三 片桐 琴恵 96 楠憲 寺島一 永井カネ子 91 奮盛 中部 稲葉伊作司 65 真一 伴野原 前澤 弘 90 健三 地藏道 國枝 繁光 64 崇光 北垣外

死亡者 年齢 届出人 自治会 山下 志 93 重利 上村 木下美保子 80 耕造 北市場三 片桐 琴恵 96 楠憲 寺島一 永井カネ子 91 奮盛 中部 稲葉伊作司 65 真一 伴野原 前澤 弘 90 健三 地藏道 國枝 繁光 64 崇光 北垣外

俳句 短歌

八日会 噴火など思いもよらぬ御嶽さん去年にうからと昼寝せし山 河原 梨花

柿も熟し秋深まれば落葉掃く姉さんかぶりの母思いだす 松島 八重

「あしたば」の名に誘われて仲間入り飽きることなき歌詠める日日 原 誠

涼しいね話し相手の秋風に背中押されてまたひと仕事 北澤 秀子

糸吐きて己が柁を造り終へ番はしづかに蛹となりぬ 福澤 岳仙

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「響」興津幸代 選 復興へ手と手歌声響かせる 原 美風 杖の鈴響かせ仰ぐ富士の山 市沢 照子 趣味仲間心と心響き合う 林 桃子

▼自由吟 桃沢健介 選 台風よ呼びもしいにまた来たか 吉川 燎 柿の実がたわわ伊那谷活気つき 福沢 勝美 出よ出よと米収穫時白眺む 小澤 凜 誘い合う仲間があつて老いの幸 西元 峯子 軸吟：相次いで目玉閣僚ボロを出し